

宿泊のかたちー日本を感じ、名古屋を知るー

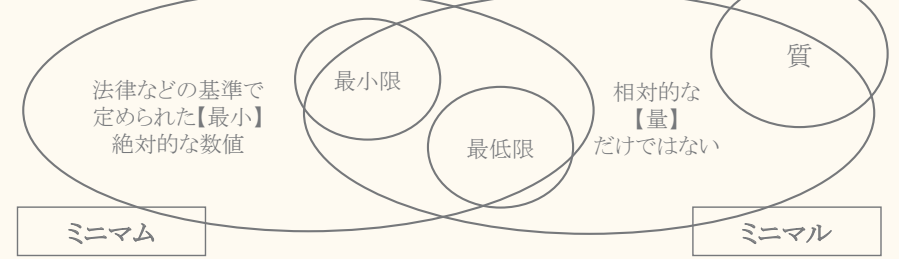


1. 背景

現在、ホテル業界は人手不足・グローバル化の遅れ・低い収益性・景気による左右・建物の老朽化の五つの課題を抱えている。近年は、新型コロナウイルスの影響で鈍化したホテル業界を取り巻く状況は少しずつ改善し、多くの国がアフターコロナの局面に入っている中、2023年以降はさらなる回復が見込まれている。

2. 目的

本研究では、ホテル業界が抱える課題の解決に加え、名古屋市の繁栄を目的とし、訪日外国人をターゲットに観光で1日中動いた体を休めることだけに焦点を当て、必要最低限ではあるが満足できる設備とサービス、そして日本の良さを生かしたデザインで様々な価値を提供するミニマルホテルの提案をする。



【用語の定義】本研究において、ミニマルホテルとは本当に必要なものを、必要な分だけ、シンプルな空間でありながらもコンセプトがあるものと定義する。

3. 計画概要

共用スペースで繋がるインバウンド客を対象としたミニマルな宿泊施設の提案

本研究では、インバウンド客を対象に観光で1日中動いた体を休めることだけに焦点を当て、必要最低限ではあるが満足できる設備とサービス、そして木材を使って日本の象徴である和のデザインのミニマルホテルを設計する。

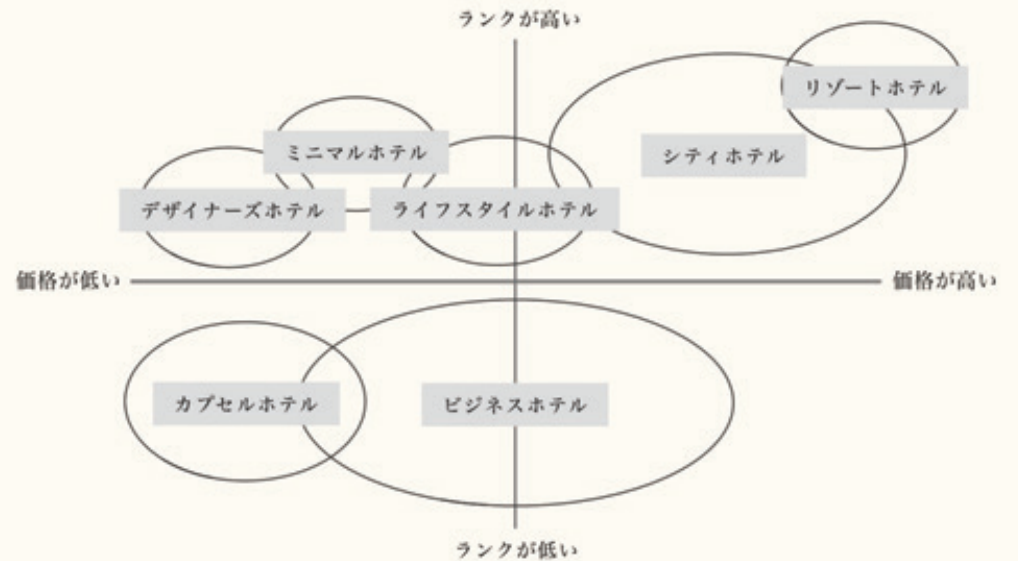
ビジネスホテル、シティホテルが主に利用されている中で、その他安価に宿泊できるカプセルホテル、滞在自体が旅の目的になるリゾートホテル、有名なデザイナーが手掛けたインテリアデザインやコンセプト・テーマがあるデザイナーズホテル、デザイン性や宿泊以外の付加価値を備えたライフスタイルホテルと用途ごとにホテルのタイプが分かれていて、ミニマルホテルは明確化された括りがない。



ミニマルな客室



宿泊者同士が交流できる共用スペース

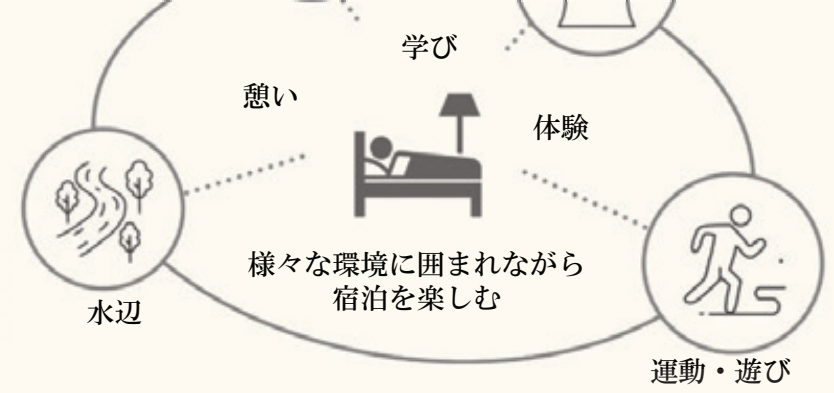


4. 敷地

本研究では、愛知県名古屋市のインバウンド人気観光地1位である名古屋城付近を対象とする。



名古屋城を中心とした約80haの総合公園である名城公園があり、緑豊かな樹林地に囲まれた北園では、「せせらぎ」の流れる芝生広場、江戸時代の名残のあるおふけ池、藤の回廊などがあり、日本ならではの四季折々の自然環境が感じられる点や、を繁華街や中心地に比べて治安が良く、外国人が安心して宿泊ができる点、繁華街へも歩いて行ける点で選別した。





5. 設計

身体を休めるための客室はミニマルであるながらも快適に過ごすことができる空間を、共用スペースは身体を休めるだけではなく、名古屋に関連した図書や資料などを置き、デザインや個性に特化したミニマルホテルを計画する。

一般的なホテル

本研究で提案するホテル

一般的な客室

本研究で提案する客室

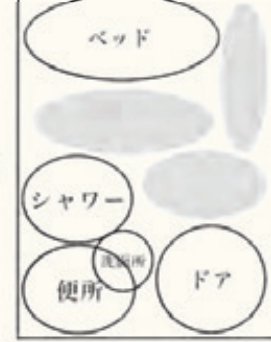
通路をなくし



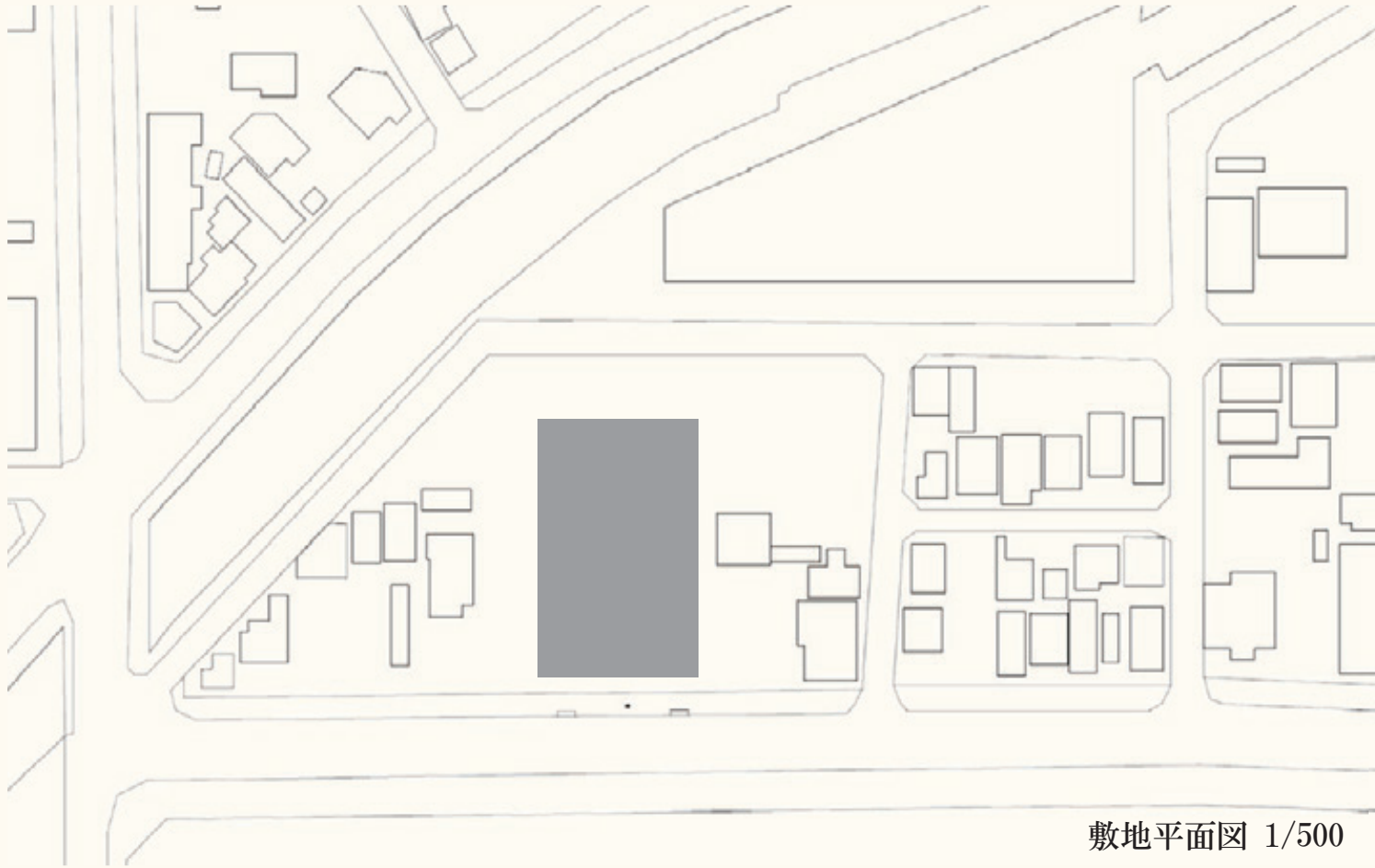
各階が区切られた空間



共用スペースを中心とした繋がる空間



通路をなくし
必要最低限(ミニマル)な空間に



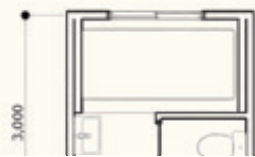
敷地平面図 1/500



南側立面図 1/200



西-東断面図 1/200





客室1 平面図 1/50



客室2 平面図 1/50



1F平面図 1/200

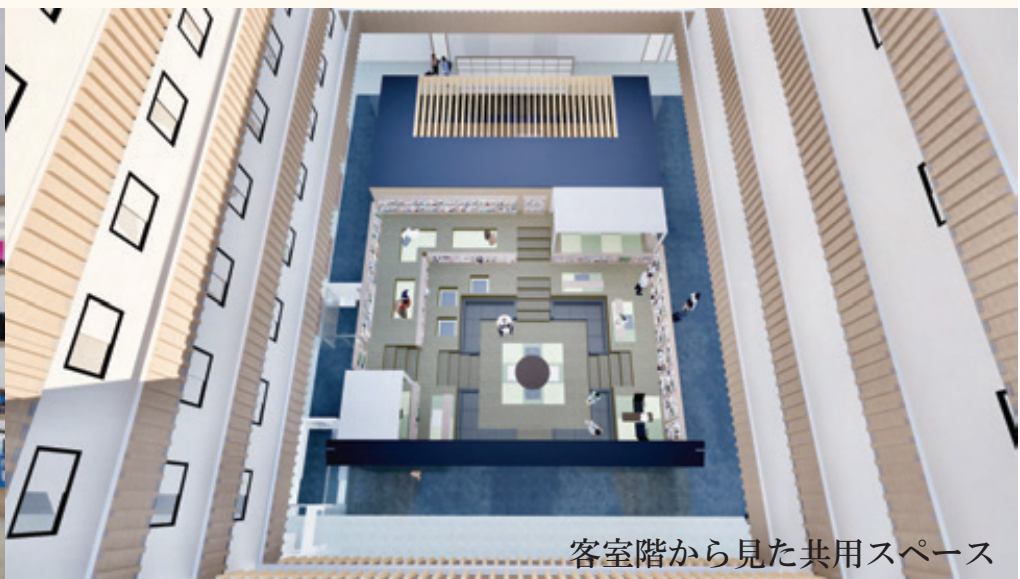


2~7F平面図 1/200



ロビー1

共用スペース1



客室階から見た共用スペース



共用スペース2



フロント



ロビー3